

- 令和4年11月1日「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会（富山県部会）を開催し、富山県内における建設業の雇用情勢等について共有したほか、コロナ禍であった令和3・4年の担い手確保の取り組みの報告を行い、これらをもとに今後の活動方針等について意見交換を行った。
- 土木の仕事や魅力を具体的に知ってもらう現場見学会等のこれまでの取り組みをしっかりと継続することに加え、雇用充足率等を念頭に土木専攻以外に取り組み対象の裾野を広げていくことを確認した。

- ・日 時 令和4年11月1日（火）14:00～15:30
- ・会 場 富山河川国道事務所3F会議室（WEB併用で実施）
- ・出席機関
 [建設産業] 日建連北陸支部、富山県建設業協会、建設コンサルタンツ協会北陸支部、富山県測量設計業協会、富山県地質調査業協会
 [教育機関] 富山大学、富山県立大学、富山工業高校、桜井高校、高岡工芸高校、南砺福野高校
 [行 政] 富山河川国道事務所、黒部河川事務所、立山砂防工事事務所、利賀ダム工事事務所、富山労働局、富山県土木部、富山県教育委員会



部会長冒頭挨拶



活動方針等の意見交換



～意見交換での主な意見～

- ・土木専攻の女子学生が毎年コンスタントに入学しており、これまで同様女子学生向けの取り組みを実施してほしい。（学校関係者）
- ・現場見学会や出前講座等で、特に先輩の話が聞けたりすることが継続的な土木への興味関心につながっており、1年生の段階から行う事が重要だと感じる。（学校関係者）
- ・保護者向けの見学会では、土木について参加してみて初めて知ったなどの意見がとても多い。（学校関係者）
- ・少子化の影響もあり、土木学科は定員割れを起こしている。オープンスクールにおいて中学生に職業観を伝えるための建設業の魅力（将来）について知識が無いことが懸案。（学校関係者）
- ・建設DXやICT建機といった働く環境がどんどん進化していることの情報発信が必要。（業界関係者）